谷川岳　西黒沢　2014/08/02

メンバー：落合 CL，齋藤 SL，荻原

天候：晴れのち霧時々雨のち晴れ

天神平駐車場 5：25→ザンゲ沢出合 6：50→肩の小屋 12：05→オキの耳 12：30→天神尾根→天神平 14：30⇒天神平駐車場 14：50

山に行く日は前夜発が多い、現地に着いても決して睡眠時間は変わらないが時間は余裕を生む。

テントを設営しては作戦会議、話が弾みもう 1～2 本酒を買い足しておけばよかったと後悔していつの間にか夜が更ける、そして興奮して結局寝不足のまま山へ向かうのがいつもの定番だ。

今回はそんないつもの山行に先月入会したばかりの齋藤さんが加わった。

新人とはいえ沢の経験も豊富で今回は SL をお願いした、登山観も近く新しい仲間が加わり嬉しい限りである。

西黒沢は谷川岳ではお馴染み過ぎる天神尾根と西黒尾根を挟んだ沢である、腕の確かなＢＣスキーヤーには冬の滑走ルートとしてお馴染みかもしれないが、沢の遡行記録は意外に少なく登山大系や谷川連峰の沢にも記述がない。

数ある谷川連峰の沢の中でいちばんアプローチもいいハズであるこの沢が、何故記述も無く遡行記録も少ないか前から気になっていた。

最低限の情報は拾いつつ、今回の目的はルート・ファインディング技術、雪渓の処理、滝の直登・高巻き、読図は遡行図を参考にせず、出来るだけ地形図で想像力を膨らまし自らの力で判断しオキの耳を目指す。

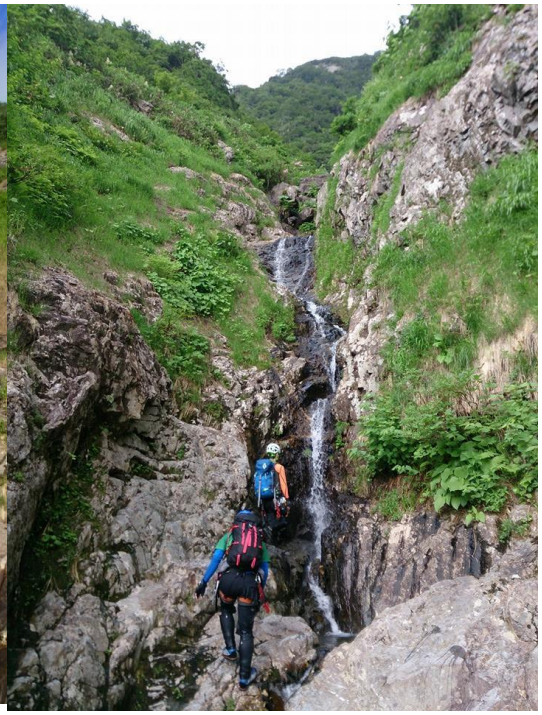
基点はお馴染みの天神平駐車場、西黒橋からブル道を 10 分程進み適当に入渓する。

田尻沢出合までは上空にロープウェー、重機が転がり人工物が多く味気ないが、白鷺滝から谷川らしい明るい沢の雰囲気がはじまる。

下部は癒し系のデート沢、ザンゲ沢出合で稜線の岩場もよくみえてアルペン的な雰囲気が盛り上がり高度も一気に上げていく。

西黒尾根から何度も見下ろしていた景色を今日は沢から見上げている、なんか不思議な気分だ。

下部は谷川らしい明るいナメが続く、早朝から身体が火照り７時前から釜で泳ぐ。



西黒沢には大滝こそ少ないが雪渓が残る中腹から上は 10～15m 前後の滝が多く、傾斜が強いので直上すると体感でⅢ～Ⅳ級くらいとフリーに近い登りとなるのでひとつひとつ気が抜けない。

沢は次に何が待ち構えているか、、というドキドキ感が堪らないのは私だけではないと思うが、中腹は登るにつれて徐々に雪渓が大きく口を開き、期待と不安で胸いっぱいになりながら遡っていく。

大きなスノーブリッジを数回一人ずつ潜り、3 段 80m 大滝は上部が意外と難しい、最初フリーで登ったら見た目以上に滑りやすくホールドも細かい、途中で左の笹ヤブを腕力で突破した。

核心のゴルジュ入口付近は雪渓が不安定で小さな刺激で近くのブリッジがドスンと崩れる、こんな所に安易に入ったら簡単に死ねるのだろう。

80m 大滝下部

ゴルジュはとても突破出来る状態ではないので、右岸の露岩帯を高巻くがゴルジュや雪渓がパックリ口を開けているのでなかなかの緊張感だ。

当然ながらいいホールドを拾っていくとどんどん沢から離れてしまい、巻き過ぎると戻ることが出来なくなってしまうので高巻きのセンスが問われる。支点も取れないので懸垂下降も難しく浮石が多かった。

ゴルジュ入口で雪渓に阻まれる

高巻きは慎重を要する

ゴルジュの突破は雪渓の状態で大きく変わると思われるが時期が早いと場合によってはすべて高巻いた方が賢明かもしれない、私たちは落ち口を探りながら上部のチムニー滝へクライム・ダウンした。

チムニー滝は落合がリード、中間が一部ホールドが細かく手がかりを見つけている間は激シャワーを浴び続けなければ上部に抜けられない。

一度目はホールドを探っている間に全身ずぶ濡れになってしまい時間切れで撃沈、気合を入れ直して二度目で突破に成功した。

シャワーを突破してのファイト一発！登攀に思わず声をあげる。

チムニー滝を超えて少し登ったら本流らしき沢はまっすぐに伸びているが、ゴルジュの抜け口がまた悪そうなので右岸の露岩帯を高巻きながら天神尾根に近い沢を詰め上げていく。

急に温水となり森林限界も近く源頭が近いことを知らせる。

少し登り左右の状況を伺って枝沢をツメたら最後ヤブにドン詰まった。

ヤブ漕ぎは嫌いじゃないという齋藤さんが先頭を進む、沢ヤらしい精神で頼もしい。

今後はヤブ漕ぎ隊長として？頑張ってもらうことにしよう、心強い仲間が増えて嬉しい限りだ。

最初は大したヤブではなかったが、登るにつれて背丈上くらいの高さになる。

天神尾根を歩いているハイカーもお互い確認出来るくらいの距離感になったが、我々は目と鼻の先で必死な思いでヤブを漕いでいるこのギャップが面白い。

ハイカーも我々の存在に気づき指をさしている、決して道に迷ったり遭難している訳ではない。

泥壁にアイスハンマーはバッチリ決まるが、このまま山頂まではまだ距離があり直上は燃費も悪く枝沢を乗越すが、トラバースはこれがまた足を取られて笹薮を溺れるようによく滑った。

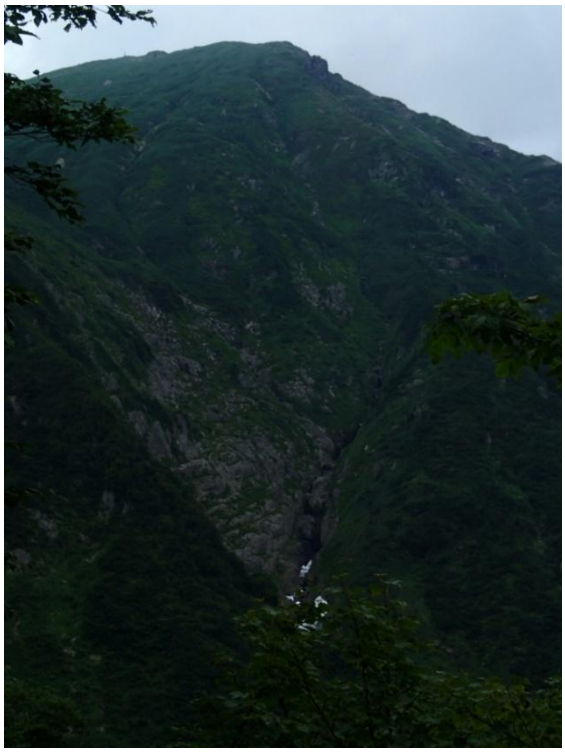
最後は天神尾根にいちばん近い沢を源頭まで詰め、肩の小屋直下で尾根に出た。

遡行時間はこれくらいだろうなと予め予想していた 6 時間 30 分程度で肩の小屋に到着、タイミングよく雨が降ってきて登山者は慌てて合羽を羽織っているがヤブ漕ぎで燃焼気味の自分たちにはシャワー代わりでちょうどいい。

肩の小屋で装備をしまいオキの耳へ、さすが休日の谷川岳は登山者で溢れかえっていた。

下りは天神尾根をはじめて下ってみたが、実は西黒沢の核心部は天神尾根の途中からみると丸見えだった事に気がついた。

感慨深い気持ちでハイカーの渋滞に揉まれながら下ったが、ゴルジュは眺めるとなかなかエグい。。



核心部の雪渓やゴルジュ、本流はそのまま直上しているが我々はゴルジュの抜け口から左の支沢を天神尾根に平行するように遡行した。

ゴルジュは右岸を高巻くと本流に戻るのが難しい、私達は天神尾根に一番近い沢が本流と予想していてほぼ予定通りのルートを遡行したが、写真や現場で判断すると本流はゴルジュを直上している。

この時期の尾根ルート下山は沢から離れると地獄のような暑さで最後はロープウェーで割愛。。

西黒沢は天神尾根と西黒尾根に隠れた存在であるが、沢の総合力を問われるなかなか魅力的なルートだった。

雪渓の有無によって核心部の突破は当然左右されるが、水量も少なく秋はおススメかもしれない。

しかし雪渓の処理こそがこの沢のエッセンスの一部と捉えるなら、あえてこの時期に遡ってこそその神髄に触れることが出来ると思う。

過去の記録に頼らず既成概念に左右されないという意味では探究心を磨くことが出来たし、そういう行為そのものが山と深く関わっていく愉しみのひとつであるということを改めて確信した山行だった。

（記録　落合）